

平成 29 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
機械工学インターンシップコース
アメリカで教壇に立つ / Step2 へ飛び込め

「アメリカで教壇に立つ」

今月は私の理想の教師になるための階段を飛躍的に上ることが出来ました。その階段は主に 4 つの出来事です。1 つ目は 4 人のアメリカの友人に絵本を朗読したこと、2 つ目はアメリカ人の方と言語パートナーになったこと、3 つ目は埼玉県川口市の教育委員会の方々にフィンドレー大学について紹介したこと、4 つ目は日本人補習校の教員として採用されたことです。それぞれの出来事について報告します。

1. アメリカ人の友人に絵本を朗読したことについて

私の友人である Anna さんに彼女の自宅でアメリカと日本の食べ物を紹介し合うパーティーに招待されました。そのパーティーの最中に Anna さんから日本の本を朗読してほしいと、お願いをされました。手渡された本は「俊介ぽかぽか」という絵本でした。



私（左奥）が絵本を朗読している様子

それは、ぬいぐるみの犬を挿絵とした絵本で、犬の気持ちが日本語で書かれていました。朗読する相手は日本人ではなく、もちろんアメリカ人です。私はアメリカ人に朗読をしたことがなかったので、絵本を読んでいる最中に、彼らから非常に新鮮な反応を受けました。それは彼らの疑問に対する討論の数の多さと深さ、またその姿勢です。朗読の途中で、主人公の犬である俊介が複数の犬に囲まれている写真が出てきました。私は、どれが俊介かを彼らに質問しました。すると、たちまち彼らの中で議論が始まりました。ある方は複数の犬のそれぞれの吹き出しの中から、これまでの俊介の吹き出しの言葉との関連性を探り、またある方は前ページの俊介と見比べて複数の犬の中から俊介を探し出

そうしていました。そして4人でそれぞれの意見を出し合い、結論をまとめ、これが俊介だ！と私に解答をぶつけてきました。私は、まさかこんなにも彼らが絵本で議論するとは考えもしませんでした。本当に衝撃的だったのです。授業とまではいきませんが、実際にアメリカ人の方と接し、議論したことで日本とアメリカの教育方針の違いに身を以って触れることが出来ました。

2. 言語パートナーについて

私は日本語を学びたい友人の Annaさんと共に、週1回の Language Exchange を行っています。授業ではなく、私たち2人だけの取り組みです。最初の30分間は英語で会話し、次の30分間は日本語で会話して、お互いの苦手な部分を補い合っています。最近のメインテーマは尊敬語と謙譲語の違いです。彼女はこの言葉の違いは理解していましたが、どのように使い分けるかを尋ねてきました。日本人である私は、当たり前であるこの違いを具体的に彼女に説明することが出来ませんでした。「当たり前だから説明できなかった。」というのは、理由にはならないと思います。私は自分の国の文化を理解できていなかったため、説明することが出来なかったのです。それが悔しくて次週には日本の縦社会の文化を紹介し、先輩と後輩という言葉を変えながら尊敬語と謙譲語の違いを説明しました。自分と異なる国籍の方と話すときは、自国のことについて知らなければならぬと学びました。

3. 埼玉県川口市の教育委員会の方々にフィンドレー大学について紹介したことについて

埼玉県川口市の教育長である茂呂修平様をはじめ、教育委員会の方々がフィンドレー大学にお越しになりました。川口市に新設する高校の目玉の1つである留学プログラムの視察が目的でした。埼玉県の奨学生の私たち3人はキャンパスツアーを実施し、実際に留学している学生としてフィンドレー大学の魅力を教育委員会の方々に伝えることが出来ました。また、フィンドレー大学長の Dr. Fell の自宅での食事会では、教育委員会の方々とフィンドレー大学の職員の方々との橋渡し役に努めました。そして教育委員会の方々から、高校生たちが留学に興味を示すような存在になってほしいという言葉いただきました。埼玉親善大使として埼玉県とフィンドレーとの橋渡し役に努め、これからの高校生たちの未来のために少しでも力になりたいと感じました。



Dr. Fell のご自宅での食事会の様子

4. 日本人補習校の教員として採用されたことについて

私は留学する前からアメリカでも教育活動を行いたいと強く願っていました。そんな折、フィンドレー大学の川村准教授からトリド日本人補習校の教員の話をしていただきました。日本人補習校とは、アメリカで暮らす子どもに日本の教育文化を補うための機関です。そのため日本人学校とは異なり、日本の教育を補うことが目的となっています。

私は研修に3回参加しました。研修の中の1つに、オハイオ州補習校教育改革連絡会の全体研修会が含まれていました。これはオハイオ州にある5つの日本人補習校の教員が集まり、各々の補習校についての近況報告や意見を出し合うものです。私もトリド日本人補習校の研修生として参加しました。そして、日本から遠く離れたここアメリカ オハイオ州で大勢の子供たちが日本の教育を補っていることを初めて知りました。これは留学しなければ学べなかった貴重な経験です。

そして実際に中学生5名に数学「反比例」の授業を行いました。私は平成29年6月に教育実習を終え、8月から留学しているので、約4ヵ月ぶりに授業をすることになりました。仕事と大学の合間で授業の計画を立てるのは非常に大変でしたが、実際に授業を行ってみると、自分は教育が好きなのだと改めて実感しました。

研修期間を終え、来年1月からトリド日本人補習校の中学数学教員として採用されることになりました。これは留学する以前には予想していなかった出来事です。まさか日本で教員になる前に、アメリカで教員になるとは思いもしませんでした。非常に嬉しい反面、仕事と大学との両立を図るため、今以上に時間の使い方に注意を払っていきます。

私はアメリカ人の方に絵本を朗読したことで、新鮮で予想しなかった文化の違いを知りました。言語パートナーとの会話では、私が日本文化について理解しきれていないことを知りました。また、埼玉県川口市の教育委員会の方々とお話ししたことは、これからフィンドレー市に留学する高校生のために、既に留学している先輩として気を引き締め直すきっかけになりました。日本人補習校の教員として採用されたことで、アメリカで日本教育を補う生徒を指導する貴重な機会を得ることが出来ました。10月は主に、これら4つの教育的な出来事がありました。この1つ1つが、私の将来に大きな影響をもたらしてくれると思います。

「Step2へ飛び込め」

会社では9月に引き続き、1つの部品のサイクルタイムの計測活動を行っています。10月には8台のサイクルタイムを記録し、部品の加工時間をまとめたグラフを作成しました。サイクルタイムを測ることは順調でしたが、私は現地のエンジニアの方々と人間関係で逆境に立たされました。そして、その逆境を乗り越えるためにStep2へ飛び込むことにしたのです。

私たちは記録したサイクルタイムを解析している中で、非効率的な動作を発見しました。それはマシニングセンタに取り付けられているドリルの動作プログラムです。マシニングセンタは1つの部品を加工するために、何本もの異なる種類のドリルを使用して加工します。ドリルAでの加工が終わるとドリルBに交換するプログラムが作動します。ドリルだけが動くのではなく、加工する部品を取り付けている作業台自体も動きます。この2種類の動作を組み合わせると部品を加工していますが、このドリルの交換のプログラムと作業台の回転プログラムの中に非効率的な動作を発見しました。それは作業台が回転し終わるのを待ってから、ドリルの交換プログラムが作動し始めることです。もしこれらのプログラムが同時に働き、作業台とドリルの交換が同時に働くプログラムを組むことが出来れば、作業時間を短縮することが出来ます。

私はこのアイデアを上司に提案するためオフィスに向かったのですが、複数のエンジニアの方々がいらっしゃり、その中で自分の意見を提案することが出来ませんでした。何も発言することが出来なかったのです。ただただ時間が過ぎ、オフィスの中で意見を発言したいが、それが出来ない自分と30分程葛藤していました。結局意見を言えないままその日のインターンは終了しました。非常に悔しかったです。

自分の意見を伝えられなかった悔しさをバネにして、10月の下旬は自分の意見を上司に伝えるために幾つかの工夫をしました。事前に発言内容をまとめて暗記しておくのはもちろんのこと、上司に発言するタイミングや場所等を考え

ました。その他のエンジニアの方々にもスムーズに自分の意見を知ってもらうため、エンジニアの方々の仕事の動きの様子を把握し、話しかけるタイミングを窺いました。その結果、100%ではなかったかもしれませんが、自分のアイデアを幾人かのエンジニアの方々に伝えることが出来ました。これは成長の証だと思います。

ただここで私は逆境に立たされたのです。それはエンジニアの方々からのフィードバックを理解することが出来なかったことです。私の現在の英語能力は「自分の意見は伝えられるが、そのフィードバックが理解できない」という段階にあります。そのため、アメリカ人の方々だけで話し合っている場合、その内容の50%も理解できていないと思います。それほどアメリカ人同士の会話を理解することは今の私にとっては難しい事です。さらに職場では専門用語が会話の中に多く含まれています。

私はこの課題を解決するために、Step2に飛び込むことにしました。そのStep2とは、アメリカ人同士の会話の内容を理解することです。私とアメリカ人の方が対面して話している場合ではなく、アメリカ人同士の会話内容を理解することです。つまり、リスニングスキルをさらに向上させることです。これは長期的な取り組みになると思いますが、エンジニアの方々のフィードバックが理解できなければ意味が無いので、工夫して努めていきます。



小型カメラを取り付けてマシニングセンタの動作を記録している様子